

## インターネットアンケート調査結果

### (1) インターネットアンケート調査概要

インターネットアンケートの調査概要を以下に示す。

表 1 「さいたま市の交通の利便性に関する満足度」把握のための調査概要

インターネットアンケートによる市民意識調査の概要	
調査地域	さいたま市全域
調査対象	さいたま市在住の満 18 歳以上の男女
調査対象数	500 人
調査方法	民間事業者の登録モニターを活用した インターネット調査
調査期間	R4 年 11 月 11～13 日
主な設問	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 個人属性</li><li>・ 交通手段ごとの利用頻度</li><li>・ 交通手段ごとの満足度</li><li>・ 交通手段ごとの重要度</li><li>・ さいたま市の交通の利便性に関する満足度</li><li>・ コロナウイルスによる交通手段利用への影響</li><li>・ 移動の利便性向上のための取組に対する重要度</li></ul>

## (2) インターネットアンケート調査結果

インターネットアンケートの調査結果を以下に示す。

### 1) アンケート回答状況

- 相対的に年齢が高い層からの回答が多く見られた。
- 男女比はほぼ同数であった。
- 回答者の約6割が既婚者であった。

表 2 アンケート回答状況（性年齢別）

		回答数	%			回答数	%
全体		500	100.0				
1	男性／18-24歳	14	2.8	1	男性／18-24歳	49,245	4.4
2	男性／25-34歳	38	7.6	2	男性／25-34歳	82,015	7.4
3	男性／35-44歳	43	8.6	3	男性／35-44歳	92,815	8.4
4	男性／45-54歳	44	8.8	4	男性／45-54歳	101,459	9.2
5	男性／55-64歳	71	14.2	5	男性／55-64歳	84,085	7.6
6	男性／65歳以上	48	9.6	6	男性／65歳以上	138,232	12.5
7	女性／18-24歳	23	4.6	7	女性／18-24歳	48,282	4.4
8	女性／25-34歳	38	7.6	8	女性／25-34歳	79,179	7.2
9	女性／35-44歳	35	7.0	9	女性／35-44歳	88,937	8.0
10	女性／45-54歳	46	9.2	10	女性／45-54歳	96,221	8.7
11	女性／55-64歳	48	9.6	11	女性／55-64歳	75,804	6.8
12	女性／65歳以上	52	10.4	12	女性／65歳以上	170,416	15.4

(参考)さいたま市制年齢別人口 令和4年11月1日現在

表 3 アンケート回答状況（性別）

		回答数	%
全体		500	100.0
1	男性	258	51.6
2	女性	242	48.4

表 4 アンケート回答状況（未婚・既婚）

		回答数	%
全体		500	100.0
1	未婚	176	35.2
2	既婚（離別・死別含む）	324	64.8

- 会社員（22.8%）が最も多く、次いで専業主婦（16.8%）、無職（15.0%）の方の回答が多く見られた。（無職は、リタイアされた高齢者だと考えられる。）
- 居住区別の回答数は概ね人口の割合と同じとなっている。

表 5 アンケート回答状況（職業）

		回答数	%
全体		500	100.0
1	会社勤務（一般社員）	114	22.8
2	会社勤務（管理職）	45	9.0
3	会社経営（経営者・役員）	7	1.4
4	公務員・教職員・非営利団体	15	3.0
5	派遣社員・契約社員	40	8.0
6	自営業（商工サービス）	20	4.0
7	SOHO	3	0.6
8	農林漁業	0	0.0
9	専門職（弁護士・税理士等）	13	2.6
10	パート・アルバイト	64	12.8
11	専業主婦	84	16.8
12	学生	17	3.4
13	無職	75	15.0
14	その他の職業	3	0.6

表 6 アンケート回答状況（居住区）

		回答数	%	(参考) さいたま市別人口 令和4年11月1日現在		
全体		500	100.0	区名	人口	割合
1	西区	34	6.8	西区	94,578	7.1
2	北区	53	10.6	北区	149,882	11.2
3	大宮区	63	12.6	大宮区	124,029	9.3
4	見沼区	70	14.0	見沼区	165,036	12.3
5	中央区	24	4.8	中央区	103,145	7.7
6	桜区	40	8.0	桜区	96,254	7.2
7	浦和区	59	11.8	浦和区	168,572	12.6
8	南区	60	12.0	南区	193,443	14.4
9	緑区	28	5.6	緑区	132,127	9.9
10	岩槻区	69	13.8	岩槻区	112,320	8.4

## 2) 交通手段に関するアンケート調査結果

実施した交通手段に関するアンケート結果を下記に示す。

### ① 利用頻度

- 1週間に3日以上利用する頻度の高い交通手段は、主に徒歩（47.8%）、鉄道（31.8%）、自動車（自分で運転）（23.0%）、自転車（22.8%）であった。
- 自動車（自分以外が運転）は全体の利用はあるものの、1週間に3日以上利用するのはわずか4.6%と低かった。
- ほとんど利用しない交通手段は、自動二輪（94.2%）、高速バス（93.4%）、コミュニティバス・乗合タクシー（90.2%）であった。

	鉄道		高速バス		路線バス		コミュニティバス・乗合タクシー		自動車（自分で運転）		自動車（自分以外が運転）		自動二輪		自転車		徒歩	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
1週間に3日以上	159	31.8	0	0.0	35	7.0	0	0.0	115	23.0	23	4.6	11	2.2	114	22.8	239	47.8
1週間に1～2日	58	11.6	2	0.4	22	4.4	2	0.4	96	19.2	69	13.8	4	0.8	73	14.6	95	19.0
1ヶ月に1～2日	93	18.6	4	0.8	52	10.4	17	3.4	34	6.8	73	14.6	9	1.8	42	8.4	46	9.2
1年に数回	71	14.2	27	5.4	99	19.8	30	6.0	21	4.2	75	15.0	5	1.0	24	4.8	25	5.0
(ほとんど) 利用しない	119	23.8	467	93.4	292	58.4	451	90.2	234	46.8	260	52.0	471	94.2	247	49.4	95	19.0

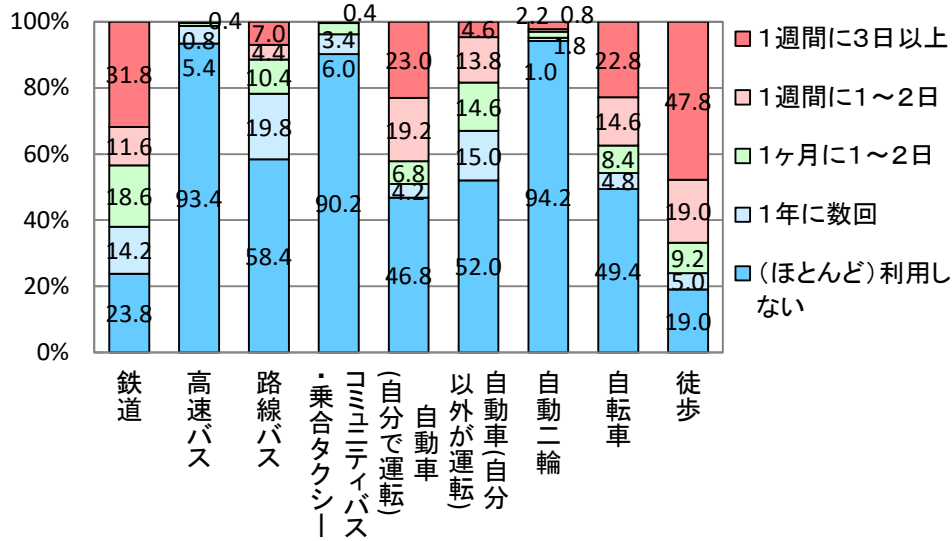


図 1 交通手段別の利用頻度

② 満足度（交通手段別）

- 満足度が高い交通手段は、鉄道、徒歩、自動車、自転車となり、利用頻度の高い交通手段と同様の傾向がみられた。
- 不満・やや不満の回答割合が多い交通手段は、路線バス（16.6%）、コミュニティバス・乗合タクシー（16.2%）であった。

	鉄道		高速バス		路線バス		コミュニティバス・乗合タクシー		自動車		自動二輪		自転車		徒歩	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
満足	155	31.0	28	5.6	53	10.6	26	5.2	108	21.6	27	5.4	77	15.4	134	26.8
やや満足	152	30.4	47	9.4	100	20.0	38	7.6	113	22.6	31	6.2	91	18.2	156	31.2
どちらともいえない	142	28.4	371	74.2	264	52.8	355	71.0	247	49.4	407	81.4	284	56.8	180	36.0
やや不満	31	6.2	24	4.8	45	9.0	40	8.0	19	3.8	11	2.2	31	6.2	16	3.2
不満	20	4.0	30	6.0	38	7.6	41	8.2	13	2.6	24	4.8	17	3.4	14	2.8

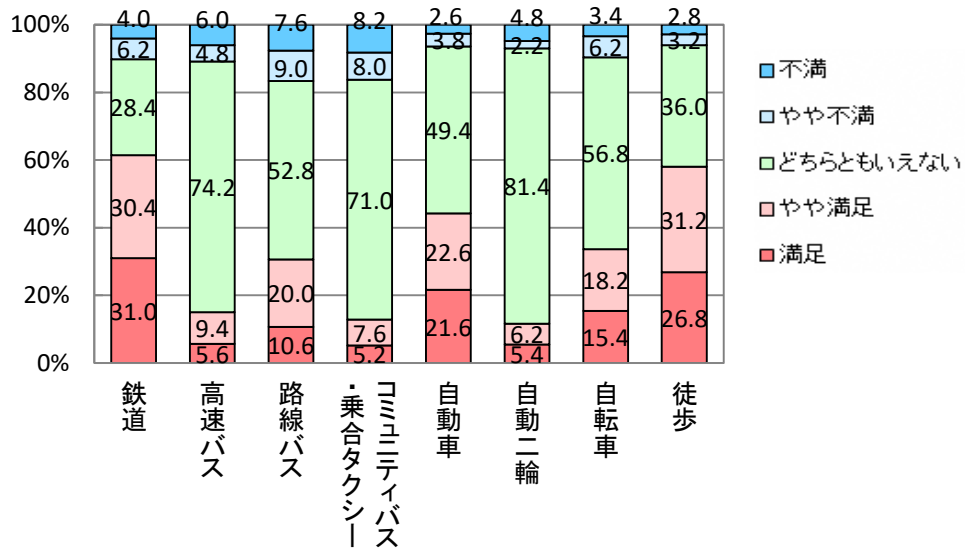


図 2 交通手段別の満足度

《過年度との比較》

(i) 鉄道の満足度

- 鉄道について、「満足」、「やや満足」を合わせた割合は、昨年度より微増している。
- 「満足」のみに限定しても、昨年度より微増している。

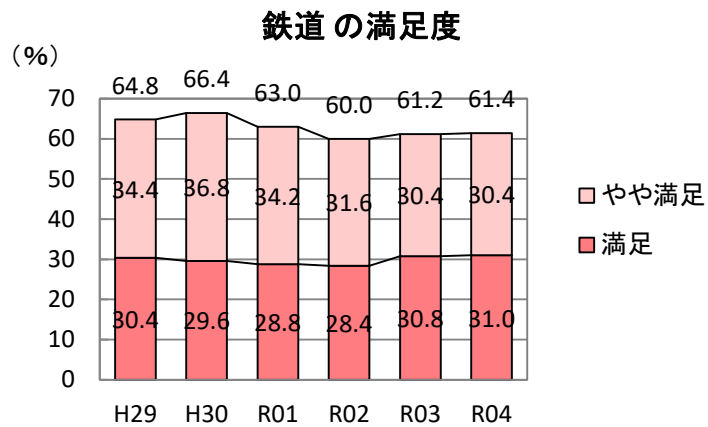


図 3 鉄道の満足度の推移

(ii) 高速バスの満足度

- 高速バスについて、「満足」、「やや満足」を合わせた割合は、昨年度より微減している。
- 「満足」のみに限定しても、昨年度より微減している。

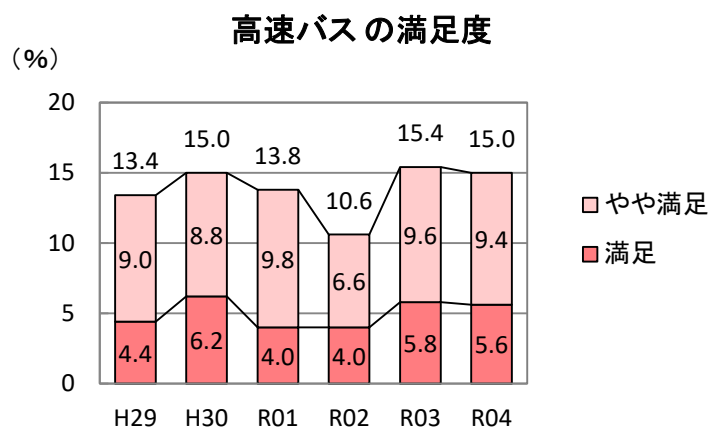


図 4 高速バスの満足度の推移

(iii) 路線バスの満足度

- 路線バスについて、「満足」、「やや満足」を合わせた割合は、昨年度より減少している。
- 「満足」のみに限定しても、昨年度より減少している。

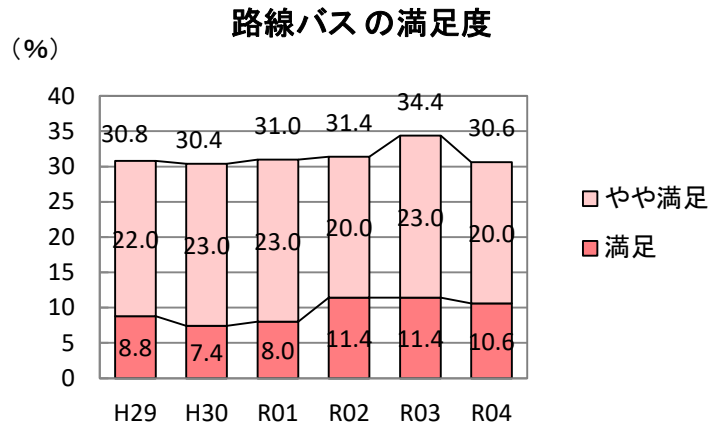


図 5 路線バスの満足度の推移

(iv) コミュニティバス・乗合タクシーの満足度

- コミュニティバス・乗合タクシーについて、「満足」、「やや満足」を合わせた割合は、昨年度より微増している。
- 「満足」のみに限定しても、昨年度より増加している。

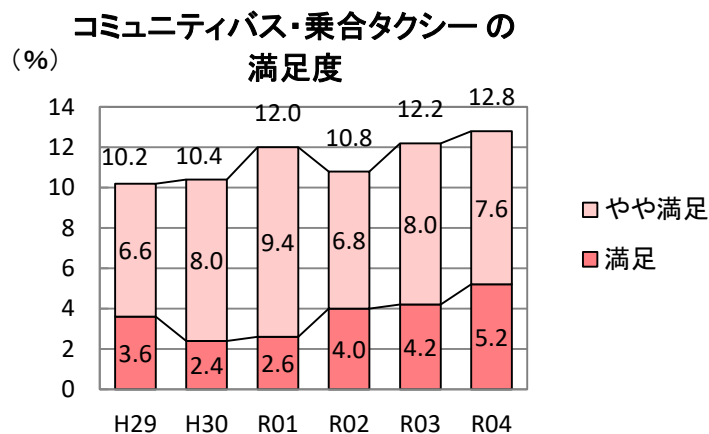


図 6 コミュニティバス・乗合タクシーの満足度の推移

※H29年度は乗合タクシーを含まない

(v) 自動車の満足度

- 自動車について、「満足」、「やや満足」を合わせた割合は、昨年度より増加している。
- 「満足」のみに限定しても、昨年度より増加している。

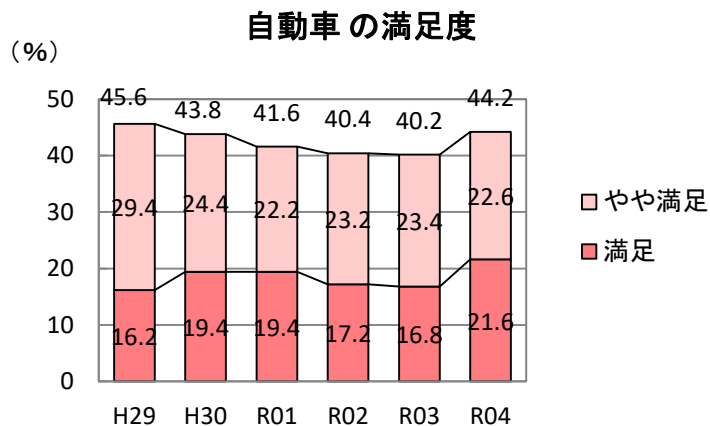


図 7 自動車の満足度の推移

(vi) 自動二輪の満足度

- 自動二輪について、「満足」、「やや満足」を合わせた割合は、昨年度より微減している。
- 「満足」のみに限定すると、昨年度より増加している。

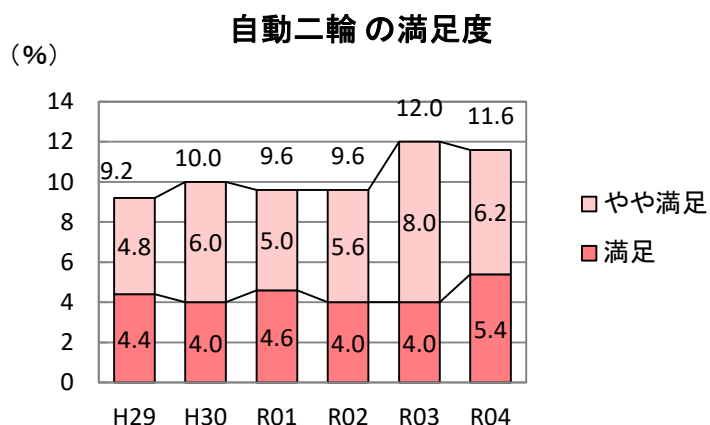


図 8 自動二輪の満足度の推移



(vii) 自転車の満足度

- 自転車について、「満足」、「やや満足」を合わせた割合は、昨年度より大幅に減少している。
- 「満足」のみに限定しても、減少している。

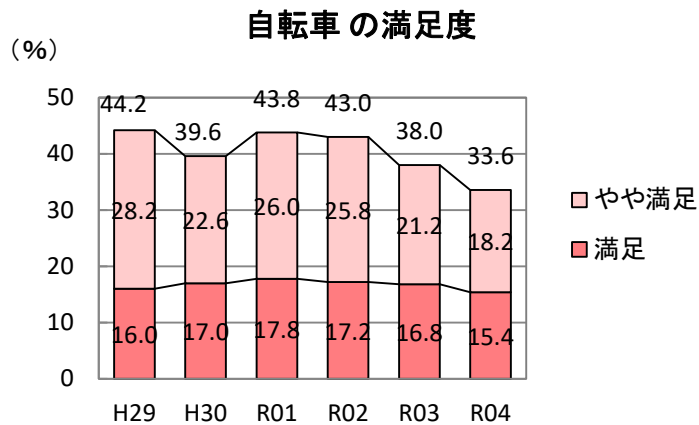


図 9 自転車の満足度の推移

(viii) 徒歩の満足度

- 徒歩について、「満足」、「やや満足」を合わせた割合は、昨年度より増加している。
- 「満足」のみに限定しても、昨年度より増加している。

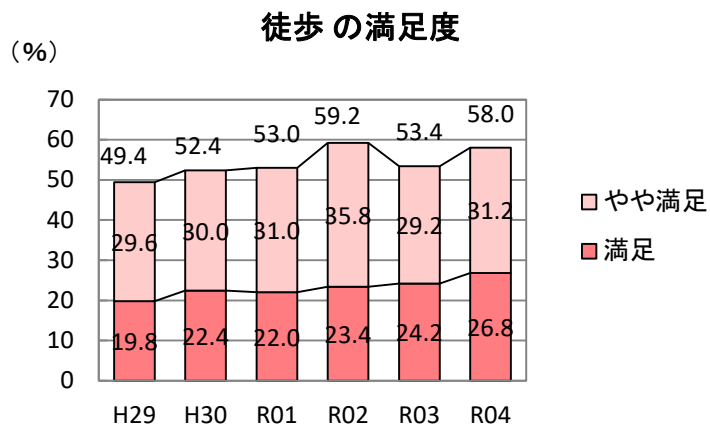


図 10 徒歩の満足度の推移

③ 満足度（総合）

□ 総合的に、交通利便性に対して約60%が満足・やや満足しているという結果であった。

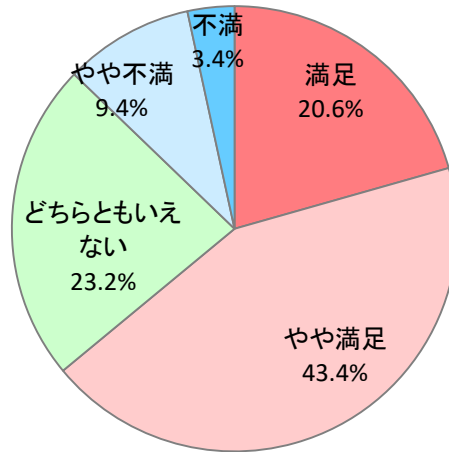


図 11 満足度（総合）

《過年度との比較》

- 総合的な満足度について、「満足」、「やや満足」を合わせた割合は、昨年度より増加している。
- 「満足」のみに限定しても、同様に増加している。

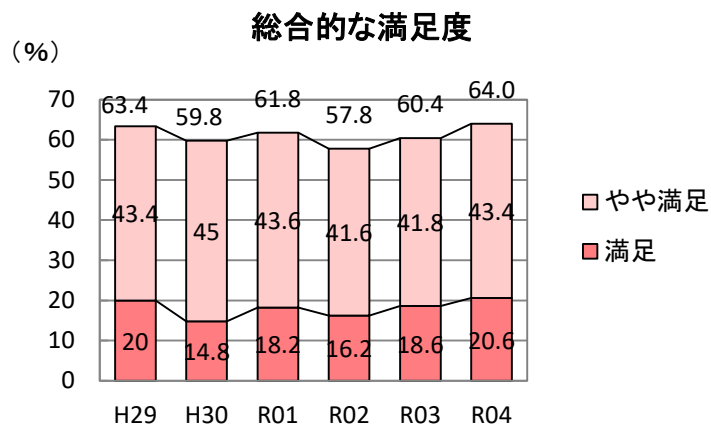


図 12 満足度（総合）の推移

④ 重要性

- 重要な交通手段と考えられているのは、鉄道、徒歩、自動車、自転車と利用頻度や満足度と同じ結果だが、それに加え路線バスが6割と高くなっている。
- 重要性が低かったのは、自動二輪、高速バス、コミュニティバス・乗合タクシーで、利用頻度の低い交通手段と同じであった。
- 鉄道は全体でもおよそ8割が重要・やや重要と回答しているが、細かく見ると、重要が58.4%と半数以上でさらに重要性の高さを感じていることがわかる。

	鉄道		高速バス		路線バス		コミュニティバス・乗合タクシー		自動車		自動二輪		自転車		徒歩	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
重要	292	58.4	30	6.0	139	27.8	65	13.0	163	32.6	40	8.0	120	24.0	209	41.8
やや重要	117	23.4	71	14.2	157	31.4	95	19.0	122	24.4	42	8.4	133	26.6	145	29.0
どちらともいえない	76	15.2	226	45.2	156	31.2	262	52.4	164	32.8	266	53.2	188	37.6	129	25.8
あまり重要でない	9	1.8	100	20.0	33	6.6	41	8.2	34	6.8	70	14.0	27	5.4	7	1.4
重要でない	6	1.2	73	14.6	15	3.0	37	7.4	17	3.4	82	16.4	32	6.4	10	2.0

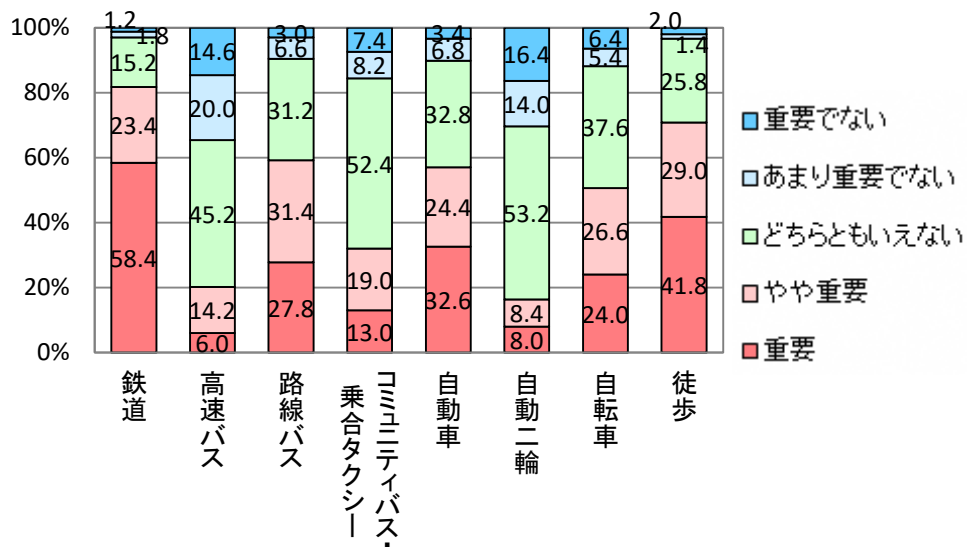


図 13 交通手段の重要性

⑤ 自由に使える自動車の有無

- ほぼ自分専用の車がある、家族共用の自動車があるとの回答者は半数以上みられる。
- 運転免許は持っているが自動車がない人が約3割、そもそも運転免許を持っていない、もしくは返納した人も2割程度みられる。
- 運転免許は持っているが自動車がない人は、昨年度より増加している。

		回答数	%
全体		500	100.0
1	ほぼ自分専用の自動車がある	155	31.0
2	家族共用の自動車がある	124	24.8
3	ない	130	26.0
4	そもそも自動車運転免許を持	91	18.2

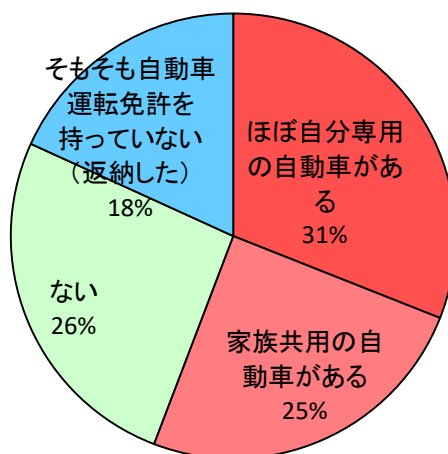


図 14 自由に使える自動車の割合

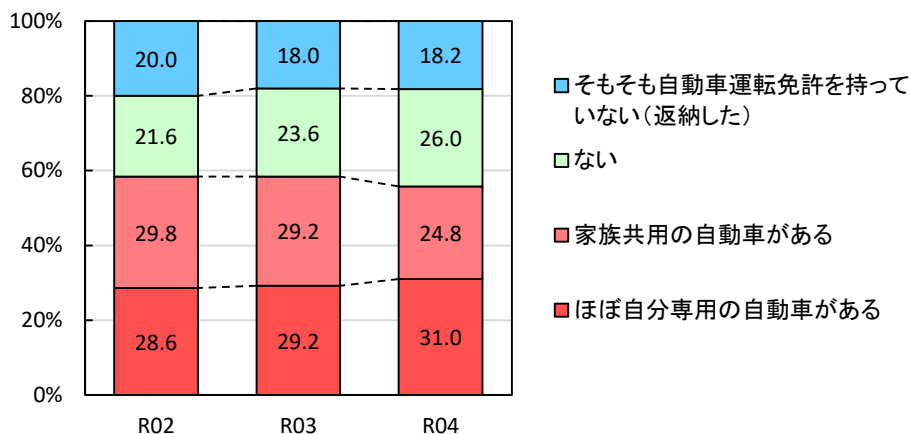


図 15 自由に使える自動車の有無の推移

⑥ 新型コロナウイルス感染症流行前と現在の交通手段ごとの利用頻度変化

- 新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、鉄道や路線バスの利用が大きく減少したとの回答がそれぞれ約3割、約2割みられる。
- 一方で、自動車や自転車、徒歩での移動が増加した人は、それぞれ1~3割みられる。
- 2022年12月2日時点でワクチン3回目接種済み数が72.8%、4回目接種済み数が40.2%と高くなってきており、移動に伴う交通手段の利用が増えることが期待される。

	鉄道		高速バス		路線バス		コミュニティバス・乗合タクシー		自動車(自分で運転)		自動車(自分以外が運転)		自動二輪		自転車		徒歩	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
大きく増加した	7	1.4	2	0.4	2	0.4	2	0.4	23	4.6	11	2.2	5	1.0	16	3.2	43	8.6
増加した	11	2.2	3	0.6	15	3.0	5	1.0	46	9.2	33	6.6	5	1.0	53	10.6	84	16.8
変化なし	337	67.4	437	87.4	408	81.6	450	90.0	401	80.2	409	81.8	457	91.4	398	79.6	346	69.2
減少した	104	20.8	25	5.0	55	11.0	22	4.4	16	3.2	29	5.8	13	2.6	16	3.2	19	3.8
大きく減少した	41	8.2	33	6.6	20	4.0	21	4.2	14	2.8	18	3.6	20	4.0	17	3.4	8	1.6

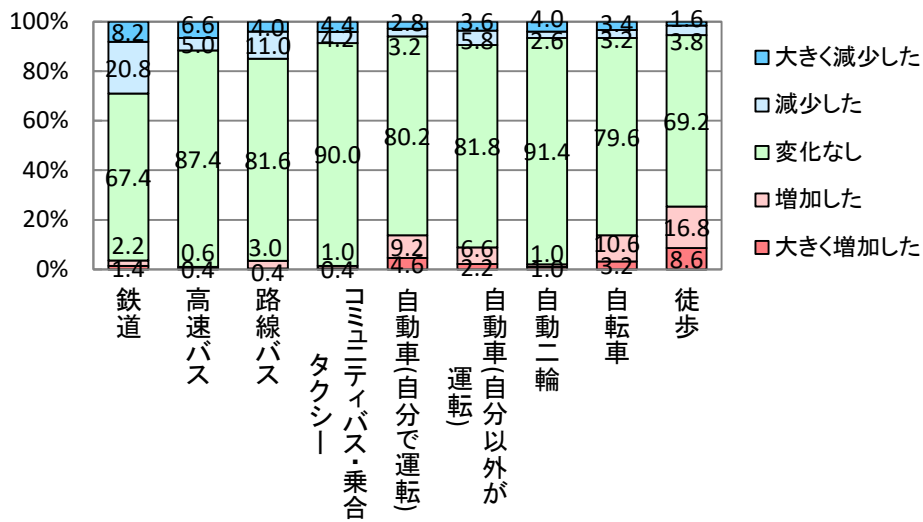
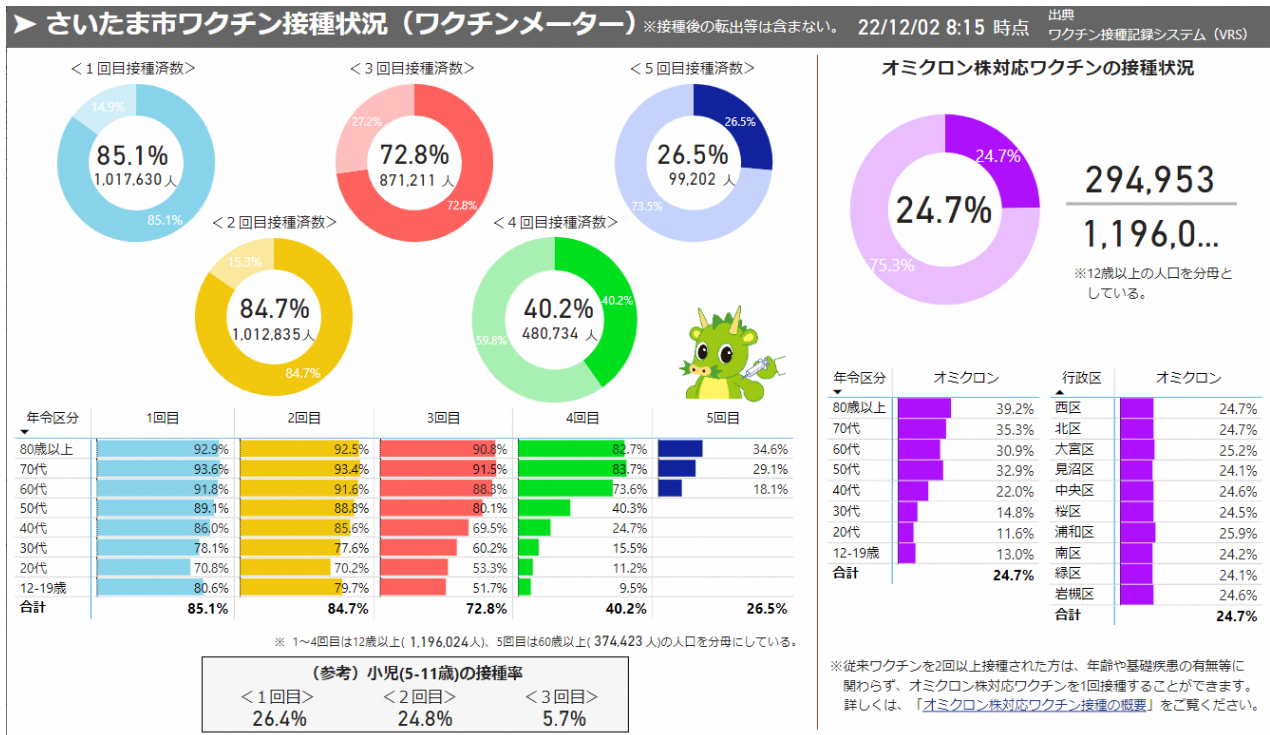


図 16 新型コロナウイルス感染症流行前と現在の交通手段別の利用頻度変化

【参考：さいたま市におけるワクチン接種状況】



⑦ 新型コロナウイルス感染症流行前と比べた1年後の外出頻度変化

- 新型コロナウイルス感染症流行前と比べて、1年後に大きく増加する・増加するとの回答が約2割みられる。
- 1年後の大きく減少する・減少するとの回答は約1割みられる。
- テレワークなど新たな生活様式への生活スタイルの変化が想定される一方で、コロナ流行前よりも外出が増加するとの回答者が多くっており、活動の活発化が期待される。

		回答数	%
全体		500	100.0
1	大きく増加する	20	4.0
2	増加する	97	19.4
3	変わらない	321	64.2
4	減少する	47	9.4
5	大きく減少する	15	3.0

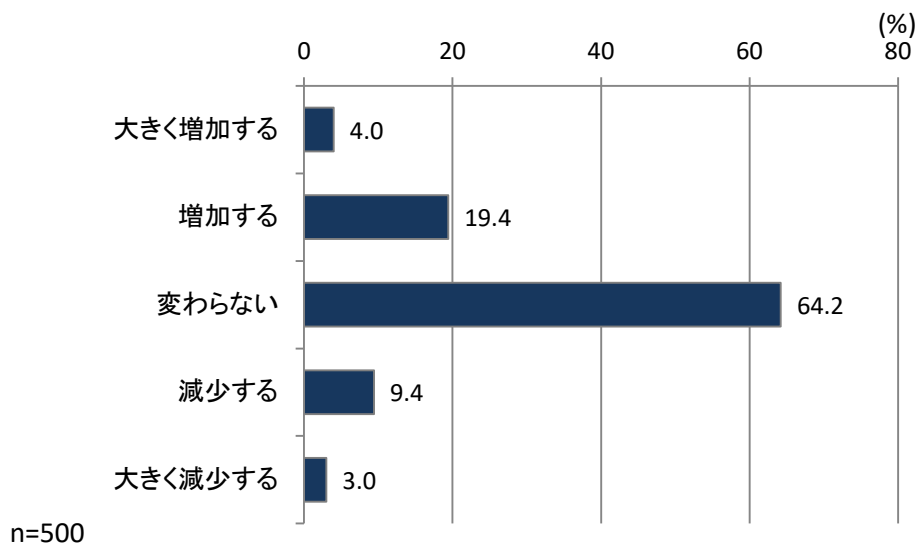


図 17 新型コロナウイルス感染症流行前と比べた1年後の外出頻度変化

⑧ 新型コロナウイルス感染症流行前と比べた1年後の交通手段ごとの外出頻度変化

- 鉄道での外出頻度が増加するとの回答が約3割みられる。
- 徒歩、自動車（自分で運転）、自転車での外出頻度が増加するとの回答が約1～2割みられる。
- 減少（大きく減少+減少）するとの回答割合は相対的に鉄道や路線バスで多くなっており、自転車や徒歩で少なくなっている。中心市街地等での活動が自宅周辺など近隣の活動に置き換わることも想定される。

	鉄道		高速バス		路線バス		コミュニティバス・乗合タクシー		自動車(自分で運転)		自動車(自分以外が運転)		自動二輪		自転車		徒歩	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
大きく増加する	23	4.6	8	1.6	6	1.2	3	0.6	15	3.0	12	2.4	3	0.6	11	2.2	20	4.0
増加する	102	20.4	37	7.4	51	10.2	34	6.8	55	11.0	40	8.0	17	3.4	55	11.0	79	15.8
変わらない	340	68.0	430	86.0	418	83.6	443	88.6	415	83.0	433	86.6	457	91.4	415	83.0	382	76.4
減少する	24	4.8	13	2.6	17	3.4	9	1.8	6	1.2	5	1.0	6	1.2	6	1.2	13	2.6
大きく減少する	11	2.2	12	2.4	8	1.6	11	2.2	9	1.8	10	2.0	17	3.4	13	2.6	6	1.2

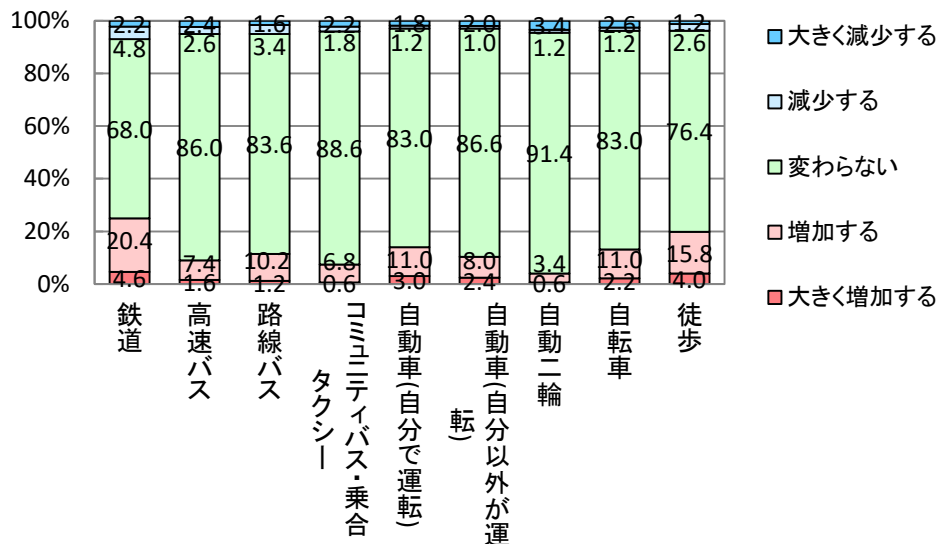


図 18 新型コロナウイルス感染症流行前と比べた1年後の交通手段別の外出頻度変化



⑨ 満足度と重要性の比較

- 鉄道はさいたま市において重要な交通手段だと認識されており、満足度も高くなっている。
- 一方で、同じ公共交通である高速バス、路線バス、コミュニティバス・乗合タクシーはいずれも相対的に満足度が低くなっている。
- 特に路線バスについては重要だと認識されているにもかかわらず満足度が低くなっている。

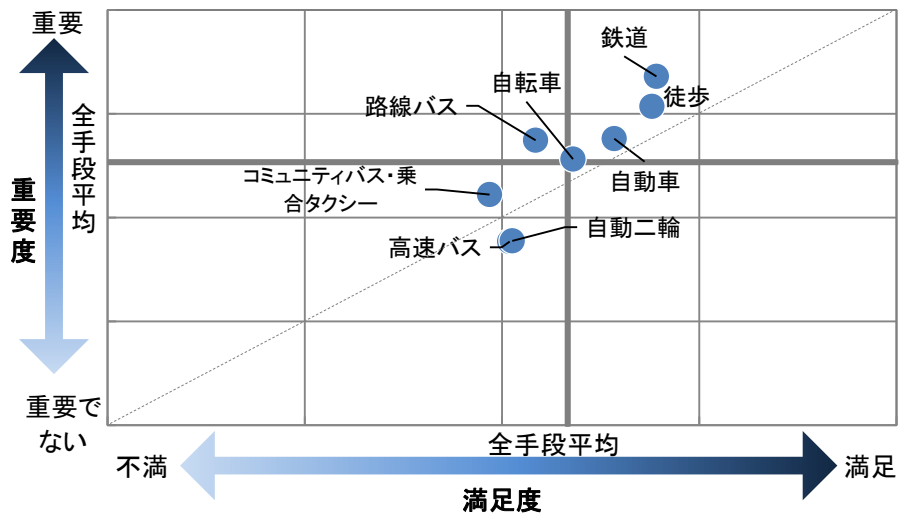


図 19 交通手段別の利便性に対する満足度と重要性の比較